

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	グループホーム みどりの郷 こんね		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番1		
自己評価作成日	平成26年 3月13日	評価結果市町村受理日	平成27年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくりとした時間を提供します、一人ひとりの思いを尊重します、地域と共に支援します」という理念を掲げ、アットホームで家族の様に接して入居者様の気持ちに寄り添った介護サービスに努めています。
 入居者様にやりがいや楽しみを持って生活をしていただきたいと、食器を洗っていただく、洗濯物をたたんでいただくなど、施設でのお仕事をさせていただいたり、今までの生活を本人様や家族の方に伺い把握しながら、出来る事、やりたい事などに目を向けたケアに取り組んでいます。介護職員の年齢は様々ですが、家族の様な関係で入居者様がより良い生活が送れる様に工夫をしています。
 施設の周りは山や田んぼに囲まれてのどかで落ち着いた雰囲気です。施設には季節の木々が沢山植えられた庭があります。庭のコンクリートは足に優しいクッション素材です。散歩の際には入居者様と一緒に季節の草花を眺めたり、小さいですが池もあり、流れる水に触れながら四季の変化を感じゆっくり楽しい時間を過ごしています。
 御家族の方には3ヶ月に1回普段の様子などを職員の手紙と写真にてお知らせしています。また、アルバムを作成し、御家族の方が面会された際に施設でどの様に過ごされているか見て頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・敷地内にある庭園には四季折々の花木や小川があり、地域の人や通学途中の子供たちが立ち寄り、利用者との交流の場となっている。
- ・利用者一人ひとりの思いを尊重するという理念に沿って、アセスメントや介護計画を詳細に見直しながら、個別的なケアの実践に繋げている。
- ・職員は利用者一人ひとりの生活歴を共有しながら、利用者が生き生きと暮らせるよう、日々のケアの実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目の届くところに掲げて日々の介護を実践している。毎月の職員会議では会議が始まる前にスタッフ一同で唱和している。意識の統一を図り、日頃より理念に添った介護を目指している	各ユニット内に地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲示している。管理者は、理念を意識しながら日々のケアを実践するよう伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の清掃活動に参加したり、施設で行われる祭りには地域の皆様へご案内し、参加をいただいている。全員の入居者様ではないが、住んでいた地域で行われる祭りに行き、知人の方に会い交流が持てている。しかし、日常的な交流は出来ていない	事業所の祭りに地域の人が参加してくれる。通学途中の子供たちが利用者に手を振ってくれたり、地域の清掃に参加するなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の情報など発信出来ていない。夏休みのボランティア活動の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。施設での行事や日頃の様子を写真を使用して報告している。会議にあたって家族の方に意見や質問をいただき、頂いた意見をもとに家族の方に施設での取り組みなども合わせて報告し、運営にも活かしている	運営推進会議の前に、毎回家族アンケートを実施し、出された意見を議題としている。参加者より意見をもらいながら運営に反映させている。職員全員に議事録を回覧し、共有と実践に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員の方に参加していただいて、情報などをいただいている。会議に欠席した場合は会議録をお届けしている。運営や請求など不明な点など介護保険課などに問い合わせ連携を図っている	地域包括支援センターの職員は、運営推進会議に参加している。市担当者には電話や窓口に出向いて事業所の取り組みを伝えながら、アドバイスや研修案内等の情報ももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行いながら身体拘束の具体的な行為について理解を深めている。身体拘束をしないケアに努めているが、時間帯や職員のホール内に人数などにより4点のベット柵や施錠を行っている。	現在、転落の危険を防止するために時間を限ってベッド柵を使用している人がいる。記録を残し、定期的な検討会議を実施すると共に、身体拘束をしないケアについて全職員で勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会より、身体的、精神的に虐待がないか気付いた点などがあれば出している。職員一人ひとりが言葉、身体的、心理的などの虐待を行わないという気持ちを持ち日々の介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用している入居者様はいない。支援はできていない。以前、権利擁護の勉強会を行ったが継続して勉強する機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を交わす際には、契約書の内容を説明し、説明後には、疑問点等がなかったか伺って入居者様や家族の方が安心して頂ける様に努めている。契約内容に理解を頂いた上で契約書に署名、捺印をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回無記名のアンケートを行って意見を頂いている。2ヶ月に1回、運営推進会議の出席のアンケートの際にも意見や質問を伺っている。意見や質問の結果は後日書面にて報告している。玄関に意見箱を設置したり、面会時にも意見や要望を伺っている。	年4回、事業所の取り組み状況の報告を行っている。電話や面会時にいつでも意見がもらえるよう話しやすい雰囲気作りを心掛けている。 年1回、家族に無記名アンケートを実施し、出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて業務内容の変更、必要物品の購入等、職員の意見や要望を聞いている。意見は本社へ伝えている	月1回の職員会議で、業務内容の変更や福祉用具の導入など、職員から出された意見や提案を積極的に聞く機会を設け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を組む際に希望を取って、なるべく希望が叶えられる様に柔軟な対応をしている。有休も出来る範囲で取れる様にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の方が講師のグループ内の勉強会に参加したり、資格取得の勉強会が開かれて希望者が参加している。資格取得に向けて勤務の調整を行っている。施設内にて勉強会を行っているが毎月ではない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内のグループホームと交流会を持ち入居者様や職員と交流を持っているが、グループ外でのグループホームとの交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けて、ご本人様や御家族と会い、施設についての説明や、質問、心配な点を伺っている。入所前には施設見学をお願いし、施設について理解していただき、入所に対しての不安が少ない状態で入所して頂ける様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けると、ご本人様や御家族と直接お会いして出来る範囲で本人様の様子や御家族が困っている事、心配な事などを伺う様にしている。入所前に施設見学に来ていただき関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった時には、ご本人様や御家族と直接お会いして話をしている。また、施設に見学に来ていただき、施設や、サービス内容の説明を行っている。ご本人様や御家族様の希望に応じてグループ会社の他種類の施設の説明をさせていただいたり、パンフレットをお渡ししている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内での家事を入居者様と一緒にやり、行って頂いた後にはお礼の言葉や感謝の気持ちを伝えている。日々の生活の中で昔の生活や歌など入居者様より教えて頂く事も多く、人生の先輩であると念頭に置きながら支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の方に、3ヶ月に1回お手紙に写真を添えて普段の様子を報告している。面会の際には家族の方に普段の様子を報告している。面会時など情報交換を行い、介護の中でどうすれば良いか迷った際など、家族の方に家での様子を伺ったり、相談をして意見をいただき、それを参考に対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数人ではあるが、知人が面会に来設されている。また、定期受診の病院の中や、入居者様の住んでいた地域の祭りに行き、その中で地域の知人に会い久しぶりに会話や交流ができた事もあった。	地元のお祭りに参加したり、知人の面会、馴染みの場所へのドライブなど、一人ひとりの生活歴を大切にしながら、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様同士の人間関係を把握し、気の合う入居者様同士が楽しく過ごせるように、席を配慮したり、話題を提供している。また、トランプ、散歩などの趣味活動を通して入居者様同士が交流できたり、関わりが持てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、加療にて退所の方には退所後も入院先にお見舞いに行ったり、他施設に入所された方には面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日頃の会話、表情、行動から思いを把握している。本人様より伺えない、わからない場合は家族の方からも希望や要望を伺いながら把握に努めている。	認知症の人のためのアセスメント・センター方式を活用している。一人ひとりの思いや暮らし方を詳細に記録しながら全職員で共有し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話や、家族の方に伺い、生活歴、馴染んだもの、好きなもの、嫌いなもの等アセスメントに書き込んでいる。アセスメントは個人ファイルにはさんで誰もがみれるようにしている。把握した事は普段の会話などに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、連絡ノート、会議などを使用して職員間で情報を共有している。一人ひとりに合った過ごし方が出来る様にケアの統一を図っている。また、日々の観察にて入居者様の居心地の良い場所や、やりたい事などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成の際には、家族の方に施設の生活について要望を伺い、計画書に意見を取り入れている。毎月の会議にて目標の評価をしたり、課題、サービス内容が現在の状況と合っているか、計画書を継続して良いかなど見直しを行っている	本人や家族、関係者の意見を反映しながら、具体的な目標を設定している。1~2ヶ月ごとにモニタリングを行いながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、変化、会議で検討した対応の結果や声かけの結果など個人ファイルや申し送りノートに記載して情報の共有、ケアの統一を図っている。介護計画書の作成や見直しの際に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方や、本人様より必要物品購入の希望があれば購入を行っている。居宅ケアマネジャーより依頼があり、地域の方で、家族の外出の為に体験利用があり、受け入れを行った。しかし、入居者様全員の細かな要望については対応出来ていないのが現状である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、活用はあまり出来ていないのが現状である。家族や本人様の希望により、市内の訪問美容師の方に来設していただき散髪を行って頂いている。佐伯消防署の方に協力していただき、避難訓練を行い、指導を受けるなど地域資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や御家族の希望を伺い、入所前から受診している主治医は変更しない対応を行っている。受診の際には、職員がケア車を送迎し受診に行く。主治医に体調を報告したり、相談などを行い連携を図っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。24時間対応可能な協力医と連携を図っている。事業所の看護職員は夜間も対応でき、適切な医療が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、常に入居者様の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。また、入居者様の医療面についての申し送りノートがあり、それを読む事で把握している。入居者様の体調の変化について報告、相談をし、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合には、施設での様子、入院までの経過などをお伝えしたり、退院の際には、病院の相談員の方より情報を頂き、連携を取っている。また、入院中もお見舞いに行き様子を伺っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	説明書にて重度化した場合、施設にてどのような対応が可能なのか説明を行っている。入所の際に重度化で当施設での対応が困難になった時の説明も行っている。重度化に希望書を作成し、本人様や、御家族様の希望を伺い、書面に残している	重度化した場合や終末期の在り方について、入居時に、事業所のできることを説明している。状態の変化に応じて、繰り返し説明、話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているが、定期的に勉強会を行っていない。今後はマニュアルに沿って勉強会を行って緊急時に備えていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力をいただき、避難訓練を行い、指導をいただいた。近くの川が氾濫したと想定して夜間訓練を行った。いつ発生するか分からない災害に対して今後も訓練を継続していく。今後は地域との連携が取れる様にしていく	年4～5回、昼夜の火災や水害等、様々な想定のもと、避難訓練や通報訓練を行っている。水害時には隣接施設へ避難する契約となっており、行事に参加するなど速やかに避難できるよう日常的に交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の気持ちを大切にしながら、人生の先輩として尊敬の念を持ち、声かけをしたり、接するように心がけている。個人情報に関しても、取り扱いに注意し、個人ファイルなどは戸棚や引き出しに直して見えない様にしている。	認知症やプライバシーについての勉強会を行っている。職員は、人格の尊重や誇りを傷つけないケアの大切さを学び、日々のケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者様が答えやすく、意思を出して頂ける様に声かけを行っている。希望を表すのに時間がかかっても、さりげなく待つなどして時間を取るようにしている。入居者様の状況に応じて二者択一にするなどの対応を行い希望を伺っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、入居者様の希望に応じて、起床の時間、食事の時間、など希望があれば、添う様に対応を行っている。時間帯など状況によっては希望に添えない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが自分でできる方には自由にさせていただいている。自力で行うのが困難な入居者様には服を選んでいただいたり、本人様の希望に添える様、質問しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、行っていただける入居者様には、野菜の皮むき、食後にはお盆吹き、食器洗いを行ったださっている。しかし、行ってくださる入居者様は限られている。食事の献立も、嫌い、苦手な食材は別のものに変更したり、リクエストを聞いての献立に取り入れている	三食とも手作りの食事を提供している。調理や片付けなど利用者の力を活かしながら、一緒に行っている。献立のリクエストを聞きながら、食べたい物が食べれる支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を記入する表を作成し記録に残し、摂取量を把握している。水分摂取量が少ない場合などにはジュースなど好みのものを出して水分摂取量が増えるようにしている。また、入居者様の食べる力を把握し、職員会議や、日々の中で話合っ入居者様にあった大きさや柔らかさ、水分にトロミを付けるなどの対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入居者様の状況に合わせて歯ブラシ、義歯洗浄剤、口腔ティッシュなど使用しながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者様の個別の習慣を把握できるよう努めている。チェック表を用いて定期的な声掛けや誘導を行っている。尿取パット大きさも入居者様に合わせて変えている。なるべくトイレでの排泄が出来るようにトイレ内の手すりの位置を変化させたり、トイレにはイラスト入りの張り紙をしてわかりやすくしている	排泄チェック表を活かして、声かけや誘導を行っている。手すりの位置を工夫するなど、トイレでの排泄や自立に向けた排泄支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様に応じて水分や運動を促している。排泄チェック表にていつ排便があったか、何日排便があいているのか把握している。看護師と連携し、緩下剤などの指示をいただき、服用し、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や入浴日が決まっており、午後や夜間など希望する時間帯に対応が出来ないのが現状。なるべく希望する日に入浴を行ったり、同様の職員の入浴介助を希望する際には職員が替わったり、入浴剤を活用して入浴が楽しめるようにしている	週2~3回の入浴となっている。一人ひとりの希望に沿って、毎日入浴する人もいる。手すりやシャワーチェアなどの福祉用具を活かして、できるだけ湯船に浸かれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮してゆっくり休息がとれるようにベッド、ソファなどに案内している。夜間は好きなテレビを見た後に寝るなど好きな時間に就寝が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、名前、日にち、何食後なのかを声に出し確認し、薬を本人様の手の中に入れて飲んだの確認している。処方箋をまとめて薬の説明書のファイルを作成し確認ができるようにしている。また、薬が変更になった時や症状が出た時には申し送りノートに記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様や家族の方より伺った生活歴などを参考に、施設内の仕事をさせていただいている。行っていただいた後は感謝の気持ちをお伝えしている。また、希望を伺って入居者様のやりたい事を行っていただいている。また、食べたいもの、好きな物を希望した時に食べて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見やドライブなど行事で苑外に行く事もあるが、回数は少ない。気候によって施設の庭に出たり、買い物に出かける事もあるが、数人であり、すべての希望には添えられていない	敷地内の庭園や近所を散歩することを日課としている。季節の花見や道の駅への買い物、馴染みの場所など、一人ひとりの希望に添った外出を行っている。外出を嫌がる人もウッドデッキで外気浴を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、数人の方がお金を所持しており、買い物にてお支払をいただいている。しかし、買い物に行く回数は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、家族の方に手紙や年賀状を書いたり、家族との電話を希望した場合に対応を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の応じた飾り付けを行い季節感を出している。施設内には温湿度計を設置しており、基本の温湿度を書面にし壁に貼り、その温湿度に近づけるよう機器を使用し管理している。また、日光の当たり具合や不快な音などを出さないように入居者様の意見を参考に職員が管理を行っている	木をふんだんに使った空間は、静かで落ち着いた空間となっている。窓の外に広がる風景を楽しめるソファコーナーなどがあり、思い思いの場所で居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が一緒に過ごしたり、ひとりでゆっくり過ごせるよう、施設内の数か所に共用のソファや椅子などを設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、今まで使い慣れた布団や食器類などを持参していただく様をお願いしている。入居者様の気に入った物や家族からのプレゼント、家族との写真など貼ったりして居心地の良いお部屋作りをしている方もいるが、来ていない方もいる	思い出の写真や生花、俳句の作品、化粧品など、使い慣れた物や馴染みの物を活かして、その人らしさの見える居室で、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー手すりを設置し、入居者様お一人でも施設内の移動がしやすいようにしている。各部屋は色で分けられており、希望があればドアに名前を張り付ける対応をしている。また、トイレのドアなどに絵付きのトイレの張り紙をして場所を印している		